整理番号	77-1-1

現況分析における顕著な変化についての説明書（教育／研究）

法人名　九州大学　　学部･研究科等名　文学部

1. 分析項目名又は質の向上度の事例名

事例２「教育関連の広報活動の向上」

2. 上記1における顕著な変化の状況及びその理由

（１）　学部・大学院統合パンフレットの新規作成

平成 19 年度広報委員会において文学部および大学院人文科学府の案内パンフレットの抜本的見直しを行い、従来個別に作成していた両パンフレットを統合し、学部・大学院の有機的な関連を明確に打ち出した平成 20 年度版案内パンフレット『九州大学文学部・九州大学大学院人文科学府　案内　2008』を作成した。デザインも一新し、ビジュアル化の推進、英語ページの充実、先輩からのメッセージ等のコラムの充実等々、内容の刷新と一層の充実を図った。これにより学部・大学院の接続がより明確となり、一貫性ある教育理念を受験生ならびに大学院進学希望者に提示することが可能となった。

（２）　九州大学法文学部 85 周年／文学部 60 周年記念事業による一連の広報活動

平成 21 年は上記のような記念の年であり、文学部では現代社会における文学部の存在意義を学内外に示すために種々の記念事業（はごろもプロジェクト）を遂行した。これは文学部の教育・研究全般を全教員が見つめ直す絶好の機会となり、九州大学文学部の姿をより明確に社会に示す契機となった。そのうち、教育関連の広報活動の向上に資する企画には以下のようなものがある。

１）朝日カルチャーセンターとの提携講座の開設（平成 21 年４月 18 日より）。従来の公開講座ならびに社会連携セミナーを企画・宣伝力に優れた民間企業との提携講座とすることで、集客力を飛躍的に高め、文学部の学問・教育を広く社会に紹介することができた（21 年度上半期「古今東西　あの世とこの世」、21 年度下半期「人はなぜ生きるのか」）。

２）文学部同窓会との共催による記念講演会・祝賀会等の開催（平成 21 年９月 19 日）。格式張った式典類を敢えて避け、卒業修了生・現役学生・教員集団はもとより、一般市民も自由に参加できる回遊性の高い企画を同時並行で開催。若い卒業生が講師を務めた記念講演や、学生 11 団体による研究発表・資料展示・デモンストレーションは、高校生をはじめとする多くの市民の参加を得て盛況であった。その成果は記念誌『蒼天悠悠』（21 年３月刊）に収録し、広く公開した。

３）財団法人福岡文化芸術振興財団と福岡アジア美術館と連携した学生によるアジア現代美術展の企画・実施（平成 21 年９月５日～11 月 23 日）。

４）福岡市美術館との共催による「仙厓展―九州大学文学部所蔵中山森彦コレクション」の開催（平成 21 年 10 月３日～11 月 29 日）。ともに美学・美術史講座の学生が企画・実施に携ったもので、教育成果を広く社会に紹介するものとなった。

85×60 はごろもプロジェクト
九州大学 法文学部85周年/文学部60周年 記念事業

http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/hagoromo/

（３）　ホームページの抜本的改革

文学部広報委員会は平成 19 年度に英語版を作成して国内外への広報を一層充実させた。21 年度には業者委託による抜本的な見直しを行って基本設計から各コンテンツに至るまで詳細な再検討を重ね、全面的なリニューアルを行った。その結果、休校通知が携帯・PHS 等で閲覧可能になるなど、学生にとっての利便性が大いに向上するとともに、文学部の教育全般を広く社会に広報することが可能となった。　→　http://www.lit.kyushu-u.ac.jp/